

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	(有)プーク人形劇場	
施 設 名	プーク人形劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業	
内定額(総額)	5,076	(千円)
公演事業	5,076	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	0	(千円)

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価																																																												
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>																																																												
<p>《社会的役割》下記5つのミッションに基づき事業であり、一定の成果を上げるが出来たと自己評価しています。</p>																																																												
<p>【①子どものための文化拠点】本事業を含め、子どものための文化事業を年間通じて実施。</p> <p>【②人形劇日本センター】全国から教育者や演劇鑑賞団体の来場、また海外からも人形劇の専門家が視察に訪れました。公演作品は、次年度52カ所に及ぶ巡回公演の予約を獲得。</p> <p>【③専門家の育成】3作品の演出家を次世代へと交代。優れた作品を次世代へ発展的に継承することと、若手の抜擢に力を注いだ。</p> <p>【④新宿地域の文化拠点】自治体や教育機関、地元町会・商店会との連携を進めたこと。</p> <p>【⑤社会包摂機能】一日中家族で楽しめる劇場として、子育て世帯の交流や居場所作りに貢献した。地元町会との連携を充実させることにより、近隣住民の参加者も多く、新規来場者を多く獲得。</p> <p>《事業内容》事業概要の通り</p> <p>《事業実施状況》比較的大きな変更点。●公演事業 No1：21回公演から、28回公演へ追加公演を実施。（詳細後述）●No.2については、概ね予定通りに実施しました。</p>																																																												
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>																																																												
<p>プーク人形劇場は日本で初の人形劇専門劇場として1971年に開設。以来、「子どもの殿堂」として、人形劇の創造・発信を続けています。全国からの年間来場者は、約20,000人。【右表：プーク人形劇場 年間来場者数（全国地方別）】</p> <p>年間通じて子育て世代でにぎわう劇場は、高齢化の進む地元町内会・商店会から、世代をつなぎ地域に活気をもたらす文化施設として大きな役割を期待されています。自治会主催の夏祭りなどの行事でも、文化芸術の面から貢献をしてきました。公演事業を通じ、近隣の子育て世帯の参加も増え、地域会員との集いを開催するなど、地域連携の強化を進めています。</p> <p>また、保育士・教員養成学校の授業の一環として、作品鑑賞とWS参加が履修課程に取り入れられ、初等教育のWS講師の養成講座の希望を受けるなど、教育現場でも人形劇の教育的意義が認められています。</p> <p>また本事業では、若手とベテランがチームを組み、若手にも大役を与えることにも注力しました。各自が力を発揮したことにより、人材育成と作品創造で一定の成果を収めることが出来ました。</p> <p>この成果を広く地域社会へ還元するためにも、劇作演出・WSリーダー・アートマネジメント等の統括的な人材育成が必要となっています。また、巡回公演を実施する各地の団体からは、公演とWSの連動した事業など、各地域に密着したプログラムが求められています。このような単なる公演活動に留まらないプログラムは、比較的安価に参加できる機会を約束することが大切になります。公的助成など外部資金を獲得することによって、社会に広く貢献する活動を継続することが可能になっています。</p>	<table border="1"> <caption>プーク人形劇場 年間来場者数(全国地方別)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">2018年</th> <th colspan="2">2019年</th> </tr> <tr> <th>来場者(名)</th> <th>%</th> <th>来場者(名)</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北海道</td> <td>65</td> <td>0.3%</td> <td>70</td> <td>0.3%</td> </tr> <tr> <td>東北</td> <td>152</td> <td>0.8%</td> <td>182</td> <td>0.8%</td> </tr> <tr> <td>関東</td> <td>15,955</td> <td>80.3%</td> <td>17,483</td> <td>80.8%</td> </tr> <tr> <td>中部</td> <td>675</td> <td>3.4%</td> <td>893</td> <td>4.1%</td> </tr> <tr> <td>関西</td> <td>258</td> <td>1.3%</td> <td>304</td> <td>1.4%</td> </tr> <tr> <td>中国</td> <td>125</td> <td>0.6%</td> <td>132</td> <td>0.6%</td> </tr> <tr> <td>四国</td> <td>56</td> <td>0.3%</td> <td>106</td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>九州・沖縄</td> <td>298</td> <td>1.5%</td> <td>309</td> <td>1.4%</td> </tr> <tr> <td>不明・その他</td> <td>2,278</td> <td>11.5%</td> <td>2,149</td> <td>9.9%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>19,862</td> <td></td> <td>21,628</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1月～12月に集計。 ※不明・その他には、外国人を含む</p>		2018年		2019年		来場者(名)	%	来場者(名)	%	北海道	65	0.3%	70	0.3%	東北	152	0.8%	182	0.8%	関東	15,955	80.3%	17,483	80.8%	中部	675	3.4%	893	4.1%	関西	258	1.3%	304	1.4%	中国	125	0.6%	132	0.6%	四国	56	0.3%	106	0.5%	九州・沖縄	298	1.5%	309	1.4%	不明・その他	2,278	11.5%	2,149	9.9%	計	19,862		21,628	
	2018年		2019年																																																									
	来場者(名)	%	来場者(名)	%																																																								
北海道	65	0.3%	70	0.3%																																																								
東北	152	0.8%	182	0.8%																																																								
関東	15,955	80.3%	17,483	80.8%																																																								
中部	675	3.4%	893	4.1%																																																								
関西	258	1.3%	304	1.4%																																																								
中国	125	0.6%	132	0.6%																																																								
四国	56	0.3%	106	0.5%																																																								
九州・沖縄	298	1.5%	309	1.4%																																																								
不明・その他	2,278	11.5%	2,149	9.9%																																																								
計	19,862		21,628																																																									

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

今回の事業にあたり、設定した目標と指標、および検証（評価）は以下の通りです。

<目標1：観客動員数の増加>

【指標①観客動員数】動員率および有料入場者割合を、これまでの数値と比較検証

目標：公演数 36 回以上／入場者数：2,865 名／入場率：80%以上と設定。

結果：公演数 42 回実施／入場者数：3,862 名／入場率：92%と、目標を大きく上回ることが出来ました。

過去の同種事業と比較すると、2018 年以降より、入場率 85%以上の高い水準を維持しています。

「12 の月のたき火」においては、昨年より 1.9%入場率の下落が見られるが、有料動員率を比較すると今年度は 0.8%の上昇していることから、招待ではなく有料の観客が増加したことが伺えます。

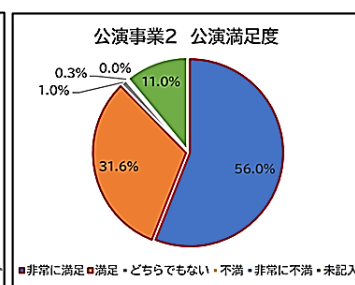
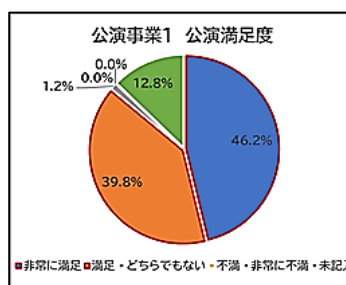
人形劇団ブーク 子どもの公演 来場者 (2017~2020年 同種事業 推移)

	演目	日数・st数	総入場者	有料	招待	入場率	有料率	アンケート	回収率	満足度
2017年11月・2018年3月	くまの子ウーフ・がんばれローラー君	20日・28st	2,339	2,135	204	83.5%	76.3%	538	23.0%	85.0%
2018年12月	12の月のたき火	7日・13st	1,222	1,116	106	94.0%	85.8%	269	22.0%	85.0%
2019年1月・3月	もりのへなそうる・ふしぎな箱	20日・20st	1,733	1,579	154	86.7%	79.0%	464	26.8%	87.0%
2019年4~6月・2020年2月	だるまちゃんどてんぐちゃん・くるみ割り人形	19日・28st	2,573	2,337	236	91.9%	83.5%	593	23.0%	86.0%
2019年12月	12の月のたき火	8日・14st	1,289	1,213	76	92.1%	86.6%	291	22.6%	87.6%

<目標2：子どもと大人、両観客層の満足度を高める>

【指標②観客動向・満足度】～アンケート結果による子どもと大人、両観客層の満足度～

公演事業1のアンケートにおける、子どもと大人の満足度は5段階評価で「非常に満足」「満足」が合計で86%。公演事業2では同項目において合計で87.6%。新演出による作品の継承が、舞台のクオリティをさらに高め、大多数の観客に受け入れられたことが伺えます。

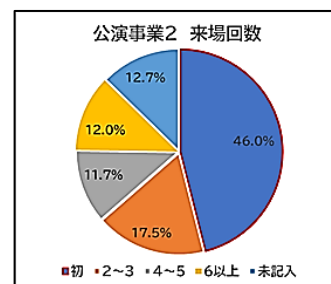


<目標3：地域との連携を高め、観客の満足に繋げる>

【指標③ 経済効果・地域連携】観劇半券チケットによる近隣飲食店割引サービス

目標：利用店舗 8 件から 12 件へ、回収枚数は 100 枚とした。

結果：利用店舗 11 件、回収枚数は 78 枚と目標は未達でした。理由としては、半券を保管していない店舗が複数あったことが挙げられる。提携店舗への保管の協力を求めると共に、回収作業の頻度を上げ、より正確な効果測定ができるように努めます。



【新規来場者 46%】都内近郊からの新規来場者が増加しています。アンケート集計からも、初来場者の割合は 46%となっています。この成果の要因としては、自治体や教育委員会の後援を頂き、都内の全幼稚園・保育園への公演チラシ配布する従来の宣伝活動と共に、マスメディアに対する広報や、各演目の専用 HP や SNS を活用することに注力したことが考えられます。地域との連携と広報宣伝力の強化によって、新しい観客層の獲得が進んでいると推察できます。

ブーク人形劇場来場回数 比較推移

『12の月のたき火』	H30年度事業		H31年度事業(公演事業2)	
	来場回数	%	来場回数	%
初	114	42.4%	134	46.0%
2~3	46	17.1%	51	17.5%
4~5	37	13.8%	34	11.7%
6以上	35	13.0%	35	12.0%
未記入	37	13.8%	37	12.7%
計	269		291	
アンケート回収率	22.0%		22.6%	

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

《事業期間》

【公演事業1】『だるまちゃん と てんぐちゃん・くるみ割り人形』

2019年4～6月・2020年2月 【要望時】計15日21ステージ→【申請時】計19日28ステージに変更

(理由) 予約開始間もない2019年1月時点でほぼ満席となり、同年2月に、翌2020年2月に追加公演を行う事を決定し、事業を実施しました。

《事業時期の設定理由》

作品の内容から、新しい友達を作る「新学期」にあたる4～6月を設定し、追加公演は、まもなく卒業・卒園を迎え、新生活への期待が膨らむ「年度末」に公演時期をそれぞれ設定しました。またWSとも連動し、GWの「このぼりづくり」や、新聞紙による人形作りなど、新しい友達と一緒に参加できる機会として設定しました。

《自己評価》

2018年度事業と比較しても、入場率・満足度ともに増加し、次年度への期待も高まっています。これら結果からも、観客のニーズに応えた適切な事業期間だったと自己評価しています。また、7stの追加公演は、観客の要求に積極的に応えた変更と評価しています。

《新型コロナウイルス感染症の影響》2020年2月に実施した追加公演は、1月時点でほぼ満席の予約状況でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、120名程のキャンセルが発生。最終的に2月追加公演の来場者は947名・入場率86%でした。(感染拡大防止のための対策を施し、現在まで一人の感染者の報告もありません。)この影響がなければ、全公演を通じて97%以上の入場者が見込まれていました。

【公演事業2】『12の月のたき火』 2019年12月 計8日14ステージ 計画通り実施。

クリスマスの恒例公演として地域町会・商店会とも連携して臨み、地域のクリスマス恒例行事としての認知度も上昇しています。昨年度に比べ新規来場者割合が8.7%増。新規顧客の獲得が見られ、有料動員率・満足度共にアップしていることから、適切なアウトプットだったと自己評価しています。

《事業費》

【2019年度 公演事業 執行状況対比表】

		申請時	決算時	決算時
		要望時からの変動	申請時からの変動	要望時からの変動
公演事業①	総収入	124.3%	115.6%	143.6%
「だるま」	総支出	131.8%	98.2%	129.4%
公演事業②	総収入	83.5%	101.3%	84.6%
「12の月」	総支出	107.9%	97.8%	105.5%
公演総計	収入	105.4%	110.2%	116.1%
	支出	110.3%	99.0%	109.2%

【公演①】15日間21回公演から、19日間28回へと増やしたため、事業費は要望比129.4%増(申請比98.2%)。一方、収入は、観客動員の増加により要望比143.6%増(申請費115.6%増)となり、収益率が改善しています。観客のニーズに応えた、効率的な公演事業であったと評価しています。

【公演②】ほぼ予算通りの執行状況でした。

《全事業を通じて》本年度の特徴として、ネット等の広報活動に注力することで、新規来場者を獲得できていることと同時に、紙媒体の広報物の削減にもつながり(チラシ印刷費33%減)、事業費の効率化にも貢献しています。また、全公演をほぼ満席で迎えることで、収益率が改善されています。また、毎年のようにチケット単価の値上げを検討していますが、事業の助成採択を頂くことで見送ることが出来ています。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

◀劇場から全国へ、上質な人形劇を▶

当劇場で行われる人形劇団プークの公演は年間8レパートリー・140ステージにおよび、創造された作品は全国へ巡回公演を行っています。

本年度事業の、「12の月のたき火」は、2018年～2019年の2年間継続実施し、国内33会場での巡回公演へと発展しました。また、「くるみ割り人形」は、52会場から2020年度の公演依頼を受けています。優れた作品を全国へ波及する芸術発信劇場の役割の一つを発揮できたと評価しています。

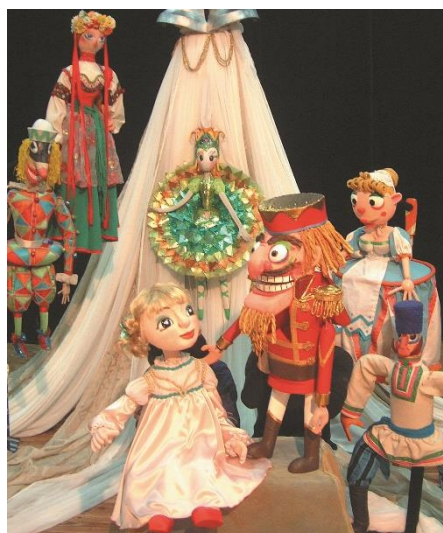
加古里子さんの絵本を基にした『だるまちゃんとなぐちゃん』は、国内様々な人形劇団も上演していますが、加古里子さんは、「プーク友の会」の前身「プー吉クラブ」の初代会長を務めるなど、プークの様々な活動を、長年にわたり支えて頂いていました。本年は1年限りの上演許可を頂いての公演でしたが、今でも全国に各地から愛され続けている作品です。今後も良好であった故人との友好関係に基づき、上演許可を頂いて公演を続けていきたい。

【受賞歴】 『だるまちゃんとなぐちゃん』 平成元年度 中央児童福祉審議会推薦作品

『12の月のたき火』 平成23年度厚生労働省社会保障審議会児童福祉文化財特別推薦作品



▲『だるまちゃんとなぐちゃん』



▲『くるみ割り人形』



▲『12の月のたき火』



▲▶WSの様子



自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

《地域に根付いた劇場》

人形劇専門劇場として開設した当劇場は、来年で設立 50 周年を迎えます。50 年の歴史と実績ある活動に加え、本公演事業を通じて、一般の方はもちろん、演劇・教育関係者、新進芸術家や芸能人、絵本作家など、全国各地からの来場者があります。もちろん、渋谷・新宿の地元地域からも、歴史と創造性の高い人形劇場として、沢山の期待を寄せられています。

公演事業を通じ、町会・商店会との連携がますます活発になっています。公演や他非営利目的の WS、地域の夏祭りの舞台運営などの幅広い活動に対し、渋谷区からの優良商店主の表彰も頂く等、プーク人形劇場への期待が大きくなっていることを実感しています。他事業ですが、渋谷・新宿地域の商業施設と連携して開催した、国際演劇祭「A-ho! 新宿」（アホイ！新宿）は、芸術文化による地域振興として、渋谷・新宿の区境を超えた連携へと発展しています。今後もこれらの期待に応えるため、劇場としての力量アップが求められています。（本年度開催を予定していた「A-ho! 2020」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、来年度へ延期。）

《他ジャンル芸術家との交流》

「人形劇」の特色を、「人間劇」へ活用することを模索して、人形劇以外の実演家からの注目が高まっています。実際に、当事業の WS に参加した実演家によって、人形や人形劇手法を用いた様々な作品が生まれています。本年度の特徴として、他ジャンルの演劇ユニット・表現グループの主宰者自らが、当劇場の年間スタッフとしての参加希望を頂いた。劇場にとっても、他ジャンルの実演家と協働を広げることは、活動の多様性を高めることに直結します。地域からの多種多様な要請に応える力にもなります。彼らは現在雇用として活動を始めています。今後も幅広くこのような希望に応えていきたいと思えます。

《教育機関との連携》

教育系大学幼児初等教育科の授業の一環として、本事業の公演と WS への観劇申し込みを例年受け入れています。また、小学校での WS ファシリエーターの要請など、教育現場からも様々な相談を受けています。WS 講師やスタッフに、人形劇専門家と前述の他ジャンルの実演家を配備することで、多角的なアプローチのできる劇場として、要望に応えるよう配慮しています。

《専門家の育成》

本事業では、上演 3 作品全て、次世代の若い演出家の新演出として臨み、作品の継承と再創造を目的の一つとしていました。優れた作品を発展的に継承することは、現代演劇にとっても課題となっています。この課題を克服するため、本事業では比較的長い上演期間を設定し、次世代演出家の育成の機会を作りました。アンケート結果や、巡回公演の予約数からも、作品のクオリティが向上し、人材育成としても成果があったと評価しています。

《全国への波及》

『人形劇場ネットワーク』を発足し、全国に良質な人形劇を鑑賞するためのネットワークに尽力しています。連携劇場の数は拡大し、全国巡回公演への推進力になっています。また、国際演劇祭「A-ho! 新宿 2018」の成功は、各地の演劇祭との連携にもつながっています。今後の発展に大いに期待をしています。

《世界への発信》

1971 年以来続けている海外招聘公演は 24 カ国・55 劇団に及びます。また、海外公演や国際共同制作など、日本の人形劇の国際発信を続けています。英文による「プーク人形劇場通信」を 1986 年より毎年発行し、各国へ配信と送付をしています。他事業ですが、2019 年 9 月、EU 文化都市の選定を受けたブルガリアの古都プロブディフにおいて「Spirits of Japanese Puppets」を上演し、好評を頂きました。今後の展開に期待しています。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

各事業終了後には、協力を頂いた関係者・団体と報告会を開き、実施状況と成果、改善点を検討しています。報告会の成果は、次年度の活動計画に活用しています。

また、プーク人形劇場、劇団プーク、スタジオ・ノーヴァ3社による株主総会「人形劇団プーク 統一総会」を年3～4回開き、活動方針・活動報告・予算・決算・新役員を討議・選定しています。これら討議の下、各事業計画と実施状況をそれぞれ検証し、各事業の一層の発展を進めています。

《雇用の推移と人材育成》

在籍年数の長い経験あるスタッフの高齢化が進み、若手スタッフの獲得・人材育成が課題となっていました。若い人材獲得を継続的な目標に掲げたことで、経営・事業運営面において次世代へ引き継ぎが進み、改善が見られます。（右表参照）

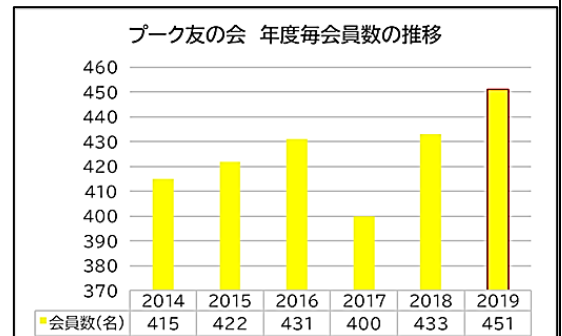
また、海外への研修派遣などの人材育成も積極的に進める事で、若い世代の活躍もみられます。

歴史ある活動を次世代へつないでいく為、一層の新規雇用が求められています。

	2020年4月1日時点						合計	新規雇用
	20代	30代	40代	50代	60代	70代		
2014年	0	1	1	0	4	0	6	-
2016年	1	0	2	0	4	0	7	1
2018年	1	1	2	0	3	1	8	1
2019年	1	2	3	0	3	1	10	2
2020年	1	3	2	0	2	2	10	1
2021年(目標)	2	3	1	1	2	2	11	1

《プーク友の会 会員数の推移》

現在会員数は451名（新規入会179名／継続者272名）。1年会員・3年会員と選択可能。会員数は一時期落ち込みを見せたが、近年、増加に転じています。前年度比4.2%増。町会・商店会との取り組みや、広報宣伝の強化が、賛助会員の獲得にも成果が現れてきました。



《全国の劇場音楽堂等ネットワークの構築》

「劇場の持つ社会性と芸術性に重きを置き、各地の劇場・音楽堂との連携を拡げる」(プーク人形劇場活動方針) この方針の下、プークとの連帯に新規参入する劇場音楽堂が徐々に増加し、ネットワークは拡がりを見せています。今後も人材の育成を進め、企画性・芸術性の強い作品の発信を続けることが重要と考えます。

海外特別公演 連携劇場推移

年	都市数	都市名	新規
2016	7	札幌・東かがわ・新宿・飯田・名古屋 神戸・伊豆大島	1
2017	7	札幌・東かがわ・新宿・飯田・名古屋 砂川・三次	2
2018	9	札幌・東かがわ・新宿(3会場)・飯田・名古屋 那覇・宜野座村・佐久・高崎(2会場)	4
2019	6	札幌・東かがわ・新宿・飯田・名古屋 三次	0
2020(見込み)	14	札幌・東かがわ・新宿(3会場)・飯田・名古屋 知立・大阪・京都・南あわじ・高崎・前橋・藤沢・砂川・旭川	7

《創立50周年を迎える「プーク人形劇場」》

2021年に創立50周年を迎えます。事業を続けることで、プーク人形劇場の歴史的・芸術的価値と、その役割が一層鮮明となっています。地域に根付く劇場、子どものための文化拠点、地域の実演家の創造拠点であると同時に、国内外へもネットワークを広げていく「人形劇センター」として、公演・人材育成・普及啓発の統括的な事業計画を進めています。